

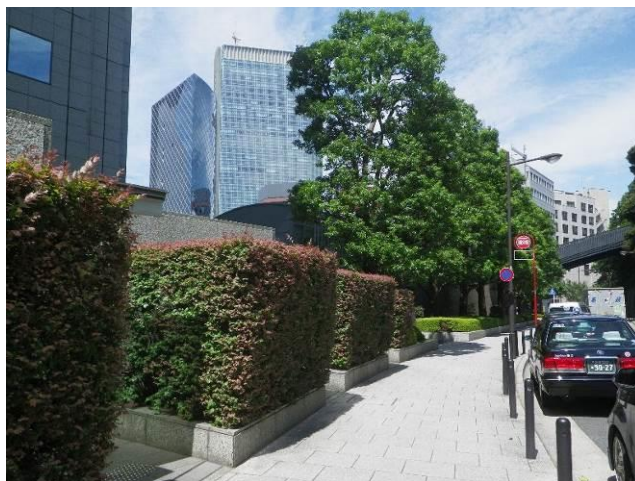
(3) 見通し等が確保された安全な空間の創出

ア 明るさや見通しを確保する

樹木の枝下空間を十分に確保するとともに、植込みの高さを抑えて、道路から広く見通せるようになっている。



見通しが確保されていない植栽配置となっている。高木の配植などにより見通しを確保することが可能となる。



イ 死角を排除する

(ア) 交通安全上の死角の排除

車の出庫時の見通しに配慮して、植込みの高さを抑えている。



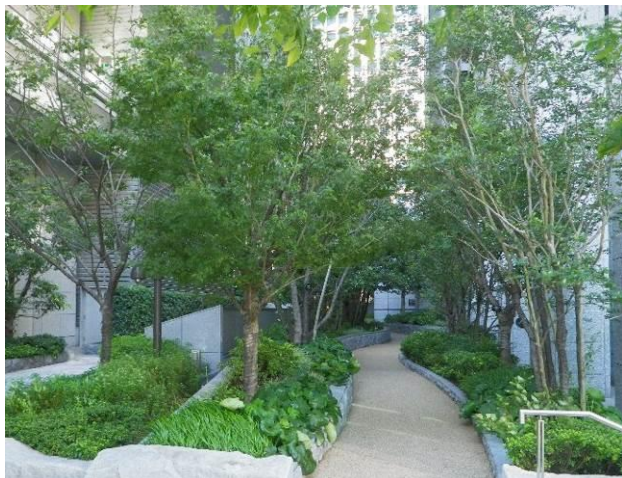
植込みの高さが高いため、車の出庫時の見通しが悪くなっている。



凡例 青字：望ましい事例 赤字：改善が望まれる事例

(イ)防犯上の死角の排除

密な植栽のため一部に死角が生じている。視線の抜けに配慮した植栽の配置が必要である。



ウ 工作物の角等は利用者に危険な形状を避ける

擁壁等の立ち上げが必要な場合、傾斜を付けた石積などは角の危険を避けるとともに、空間に柔らかさを与える。

鋭角を強調した壁は、利用者にとって危険である。



凡例 青字：望ましい事例 赤字：改善が望まれる事例

コラム：「見通し等が確保された安全な空間の創出」

公開空地は、多くの人に安心して利用してもらうため、死角の少ない安全な空間であることが必要となります。そのため、枝下空間が確保された高木を配置するなど、見通しの良い空間の創出が求められています。当初の計画段階から、そのような空間となるよう配慮することが重要となります。

また、樹木は病虫害や自然災害等により、倒木や枝枯れ、枝の落下などが発生することが考えられます。日々の点検はもちろんのこと、樹木医等の専門家による診断によって、危険を未然に防止するなど、公開空地における安全性を確保することは、重要な役割の一つです。

将来にわたって、安全を確保し、人々に安らぎや癒しを与えられるよう、公開空地の特性に応じた高い管理技術と管理計画に基づいた適切な維持管理を実施することが必要となっています。



撮影：豊洲キュービックガーデン